

平成21年 2月19日

各 位

本 社 所 在 地	東京都千代田区神田佐久間町 1 丁目 9 番地
会 社 名	株式会社 テラネット
代 表 者	代表取締役社長 岡田 圭治
コ ー ド 番 号	2140 札幌証券取引所 アンビシヤス
問 合 せ 先	管理部長 岡久 勉
電 話 番 号	011-876-9544
U R L	http://www.terranetz.com

特別損失の計上及び業績予想の修正に関するお知らせ

当グループは、現在集計中の平成20年12月期(平成20年1月1日～平成20年12月31日)決算において、下記のとおり特別損失を計上することいたしましたのでお知らせするとともに、平成21年1月14日に公表いたしました平成20年12月期(平成20年1月1日～平成20年12月31日)の連結業績予想及び平成20年12月期(平成20年1月1日～平成20年12月31日)の個別業績予想を下記のとおり修正いたします。

また、多額の特別損失の計上により、当連結会計年度末において、誠に遺憾ながら、当グループは債務超過の状態に陥る見込であることもあわせてお知らせいたします。

記

1. 減損損失による特別損失の計上について

当社のグループ会社である株式会社チャリロトの運営する公営競技サービス事業が、開業初年度(平成20年4月より事業開始)の計画に対し、大幅な未達成となったため、当連結会計期間において大幅な営業損失を計上し、また、営業活動によるキャッシュ・フローも大幅なマイナスとなる見込であることから、「固定資産の減損に係る会計基準」及び「金融商品に関する会計基準」に基づき、当連結会計年度において下記の減損処理を行います。

(1) 連結

株式会社チャリロトの業績が当初計画より大幅な損失を計上する見込であるため「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、株式会社チャリロトが保有する事業用固定資産(ソフトウェア及びリース資産)につき減損会計を適用し、特別損失として減損損失595百万円を計上いたします。

連結上ののれんに回収可能性が認められないため、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、連結上ののれんに減損会計を適用し、特別損失としてのれん減損損失108百万円を計上いたします。

(2) 個別

株式会社チャリロトの業績不振により、関係会社株式の実質価額が著しく低下し、その回復可能性が認められないため、「金融商品に関する会計基準」に基づき、特別損失として関係会社株式評価損37百万円を計上いたします。

また、株式会社チャリロトの事業用固定資産の減損損失の計上により、大幅な債務超過が見込まれることから、当社が株式会社チャリロトに貸付けている貸付金及び同社が保有している事業用固定資産のリース契約における当社の債務保証額について、現時点で回収不能となる見込額について、それぞれ特別損失として貸倒引当金繰入額872百万円、債務保証損失引当金繰入額242百万円を計上いたします。

2. 平成20年12月期通期業績予想数値の修正(平成20年1月1日～平成20年12月31日)

(1) 連結業績予想

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	642	507	12	125
今回修正予想(B)	642	508	514	1,252
増減額(B-A)	0	1	526	1,127
増減率(%)	-	-	-	-
(ご参考)前年同期実績 (平成19年12月期)	-	-	-	-

当グループは、平成19年12月期より連結財務諸表を作成しておりますが、新たに連結子会社となった1社のみなし取得日が前連結会計年度末であり貸借対照表のみが連結対象となるため、平成19年12月期連結損益計算書は作成しておりません。

(2) 個別業績予想

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	581	37	257	120
今回修正予想(B)	581	35	38	1,148
増減額(B-A)	0	2	219	1,268
増減率(%)	-	5.4	85.2	-
(ご参考)前年同期実績 (平成19年12月期)	561	61	54	56

3. 修正の理由

売上高、営業利益につきましては、平成21年1月14日に公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」に記載のとおりであります。

また、経常利益及び当期純利益につきましては現在集計中であり、明らかになり次第速やかに開示することとしておりましたが、このたび上記1.による特別損失計上の影響を踏まえて、当連結会計年度の業績予想について精査を行った結果、経常利益、当期純利益の予想数値を算定いたしましたので、平成20年12月期の連結・個別業績予想について修正するものであります。

4. 債務超過解消について

多額の特別損失の計上に伴い、誠に遺憾ではあります。当期末において当社は連結・個別において債務超過の状態となる見通しであります。当社は、早期に債務超過状態を解消するため、株式会社チャリロトの資本増強など、この状態を打開するための方策について、種々の選択肢を探っているところであります。

債務超過の解消については、方策が決定しだい随時発表させていただき所存でありますので、何卒ご理解賜りますようお願いいたします。

(注) 上記の業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以上